



# コショウラン栽培の冷房コストを25%低減

— 間欠冷房と環境制御で、冷房コストを低減します —

## 開発の背景・ニーズ

コショウランの高品質生産には真夏でも25℃以下の低温が必要です。愛知県のような暖地では、4～9月に昼25℃/夜18℃の連続冷房を行うため、多大な冷房コスト（250万円/10a）がかかっています。このため、低コスト冷房処理技術の開発に取り組みました。

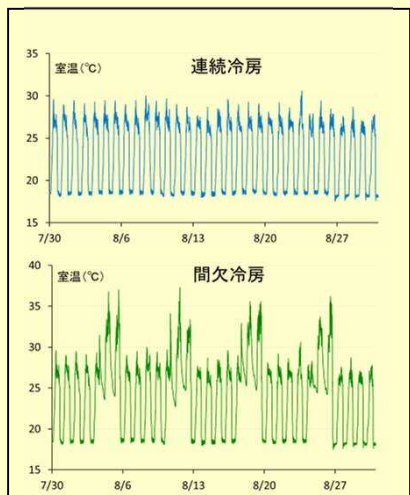
## 成果の内容

**間欠冷房**：連続的に冷房するこれまでの方法（慣行）に対して、1週間に5日の冷房と2日の冷房無し（換気のみ）を繰り返す方法です。これにより、慣行の連続冷房と同等の花茎発生および開花品質が得られ、出荷時期も慣行より1週間程度早まります。冷房コストについては20%以上低減できます。

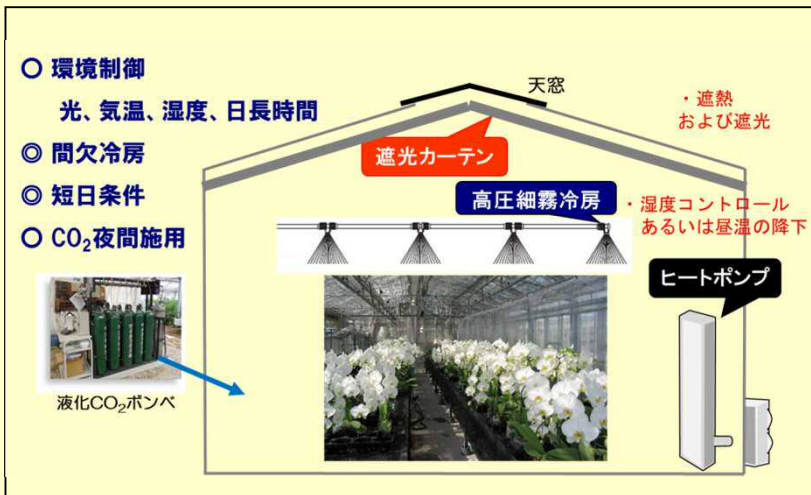
**統合環境制御**：長日期に朝夕を日除け（シェード）して9～10時間日長とします。これにより、通常（自然日長）と同等の開花品質が得られ、出荷時期も数日早まります。光環境、細霧による温度環境など統合的に制御して冷房コストが5%以上低減できます。

間欠冷房と統合環境制御の組合せによって、冷房コストの25%低減が可能です。

間欠冷房と連続冷房の比較



統合環境制御のイメージ（コショウラン）



## 愛知県農業への貢献

開発した低コスト冷房処理技術は、生産農家の所得向上につながるため産地の維持強化に大きく貢献するものとして期待できます。今後は、間欠冷房に必要な換気の自動化装置を民間企業と共同開発し、現地での実証研究でその導入効果を検証します。さらに、他の鉢物花き品目においても本技術の適用拡大を目指します。